

はじめに

平成 23 年度（2011 年）の札幌市衛生研究所年報第 39 号をお届けいたします。

札幌市衛生研究所は昭和 37 年に札幌市衛生試験所として開設され、昭和 48 年に衛生研究所と改名し、昭和 63 年に現在の庁舎に移転し現在に至っております。設立から 50 年を経て、内外の環境も大きく変化する中、現在は保健科学課と生活科学課の 2 課 6 係 40 名体制で試験検査、調査研究をはじめ、公衆衛生情報の解析・提供などにはげんでいます。

過去 50 年の間に日本人の平均寿命は飛躍的に延びましたが、世界のグローバル化も進みました。世界を一日で移動可能となった現代においては、感染症はもとより食品由来疾患や環境からの健康被害等を最小限に抑えるため、迅速な健康危機管理がより重要になってきています。また、2011 年は大震災や原発事故を経験し災害対応の必要性・重要性を身にしみて感じさせられる年でした。

こうした中であって、札幌市衛生研究所が地域の科学的技術的中核機関として機能するためには、最先端の技術を常に導入し、ウイルスや細菌などの分子疫学に基づく的確な情報発信が重要となってきます。さらに、大気・水質・食品などの分析を通じて人・動物の健康に重要な環境保全に関する調査研究・検査を進め、かつ関係機関としっかり情報共有・連携することが大切であると痛感しております。

当所ではタンデムマスによる新生児スクリーニングを平成 17 年より開始していますが、平成 23 年には厚生労働省が全国の自治体に対し、同じタンデムマス法による検査を導入するよう通知を出しました。これからも、このような先進的な予防医学の技術を継承発展させる重要性を認識し全所あげて対応していきたいと思っております。

以上、本年報をご高覧のうえ、お気づきの点があればご教示のほど宜しく御願いたします。